

## 第1章 独占的市場構造と独占価格・独占利潤 (Text 第6章)

はじめに

資本の目的＝最大限の価値増殖・剰余価値（利潤）の獲得

⇒利潤の最大化（投下資本あたりの利潤最大化）

⇔現代では古典的な意味での資本家はごく一部

⇒現代の主要企業の経営者には広範な裁量権がある

現代企業の行動目的は変化したのか？

売上高最大化？市場シェアの維持・拡大？

社会的使命の遂行，従業員を含めた共同体の利益？ 株価最大化？

\*配当や株価の維持・上昇に失敗した経営者の交代の意味

投資家が株式を購入し企業に投資する理由

= \_\_\_\_\_ の取得や \_\_\_\_\_ によるキャピタル・ゲインの獲得

1. 経営者は株主の意思から自由ではない

\_\_\_\_\_ の増加・ \_\_\_\_\_ 上昇のためには利潤の増大が必要

2. 企業活動に必要な資金調達

直接金融： \_\_\_\_\_ 市場や \_\_\_\_\_ 市場から調達

間接金融：金融機関からの借入れ

有利な条件での資金調達・利子等の支払い⇒利潤の増大が必要

3. 所属産業部門内外の競争の存在

\*競争に勝ち・生き残るためには \_\_\_\_\_ 向上と \_\_\_\_\_ が不可欠⇒利潤の増大が必要

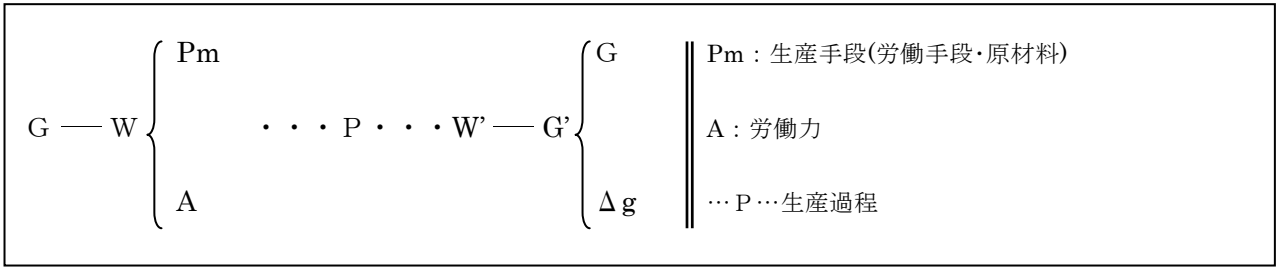
### 序節「資本の集積・集中」の運動 (Text 第3章第2節)

#### (1) 競争段階の資本蓄積の進展過程

① 生産力向上・資本蓄積の「無制限的」拡大傾向

(a) 市場条件と剰余価値の取得

最大限の価値増殖・剰余価値の取得のためには，商品価値・剰余価値の「実現」が不可欠



$W' - G'$ が順調に行なわれるためには市場において  $S \leq D$  が必要

$S < D \Rightarrow P \_ \_$  ならば生産・資本蓄積

$S > D \Rightarrow P \_ \_$  の場合はどうか？

市場が停滞的で市場価格も低下傾向の場合に

できるだけ多くの剰余価値を獲得するために資本家はどのような行動をとるべきか？

(b) 総資本としての合理的行動と個別資本の合理的行動

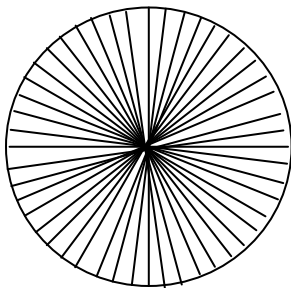
市場が  $S > D$  なのだから、総資本としては供給量\_\_\_\_\_

→価格水準の\_\_\_\_\_を図る方が合理的な行動

競争的市場においてそうした行動は可能か？

競争的市場の基本的特徴：市場規模に比べて小規模の資本が多数存在

i) 個別資本家が生産を縮小したら？

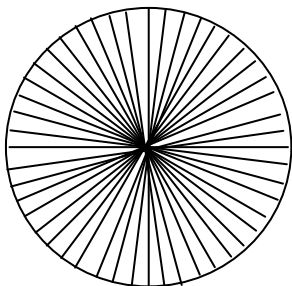


{ 市場規模に対して\_\_\_\_\_

{ 他の資本の供給\_\_\_\_\_・販売増大

⇒価格に影響\_\_\_\_\_

ii) 多数の資本家が協定を結んで生産を縮小したら？



協定を結ぶべき資本の数が非常に多数

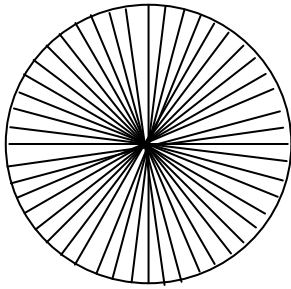
{ それぞれの\_\_\_\_\_が異なる⇒生産量調整の要求水準が異なる

{ 協定破りを防ぐことが非常に\_\_\_\_\_

⇒協定の締結・維持が非常に\_\_\_\_\_

協定の締結は困難であっても可能性ゼロではない

協定が成功したら？

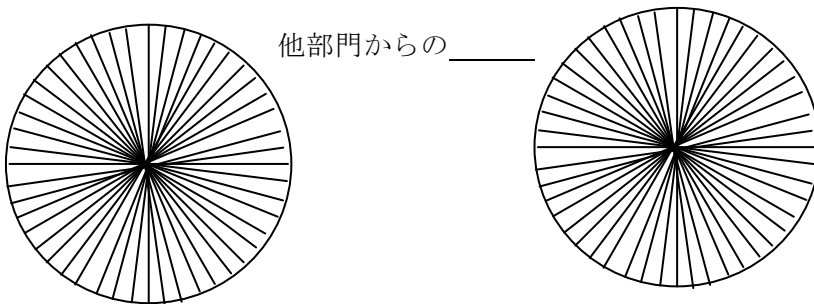


A 部門において協定の成功→生産・供給制限→価格\_\_\_\_\_

⇒利潤率の\_\_\_\_\_

iii) 他部門の資本家はどのような行動を取るか？

低利潤率の他部門の資本によって A 部門の\_\_\_\_\_利潤率は魅力的



⇒A 部門への\_\_\_\_\_ (\_\_\_\_\_を阻害する要因なし)

⇒価格は再び\_\_\_\_\_ = 利潤率\_\_\_\_\_

⇒A 部門の資本の販売量減少・利潤減少

以上をまとめると

i) 個別資本の生産量調整による価格支配の可能性

個別資本の市場シェアはきわめて\_\_\_\_\_

自己の供給減→競争者の供給\_\_\_\_\_

ii) 多数の資本家の協定による生産量調節の可能性

多数者の協定(カルテル)締結の\_\_\_\_\_

締結した協定の維持の\_\_\_\_\_

iii) 部門外からの参入可能性

小規模の資本ゆえに他部門からの参入が\_\_\_\_\_

協定の成功→価格\_\_\_\_\_・利潤率\_\_\_\_\_→参入を\_\_\_\_\_

参入→供給増→価格低下→利潤率低下・利潤減少

\* 競争市場において個別資本はプライス・テイカーでしかない

市場が停滞的で価格支配が不可能という条件の下で個別資本がとりうるもっとも合理的な行動は？

利潤の増大が目的⇒ \_\_\_\_\_ を低下させるしかない

生産力の高い優秀な新生産方法の導入

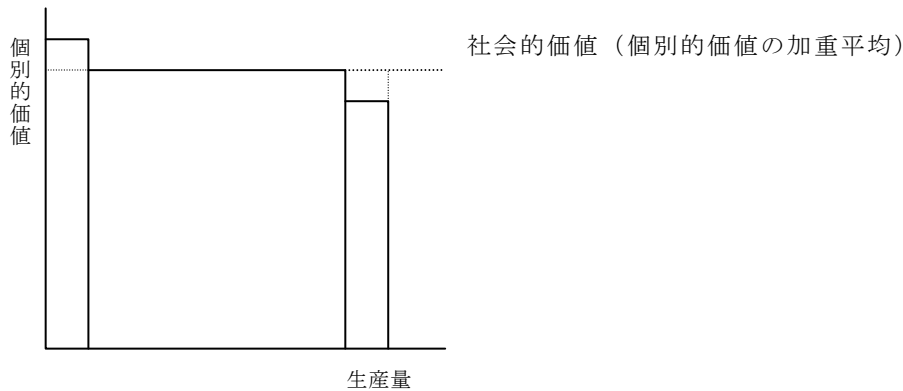
→ 生産物 1 単位当たりの費用の低下 ⇨ 個別的価値の低下

→ 社会的価値による販売 ⇒ 差額を特別剰余価値として獲得

新生産方法の率先的・競争的導入および導入と結びついた資本蓄積促進

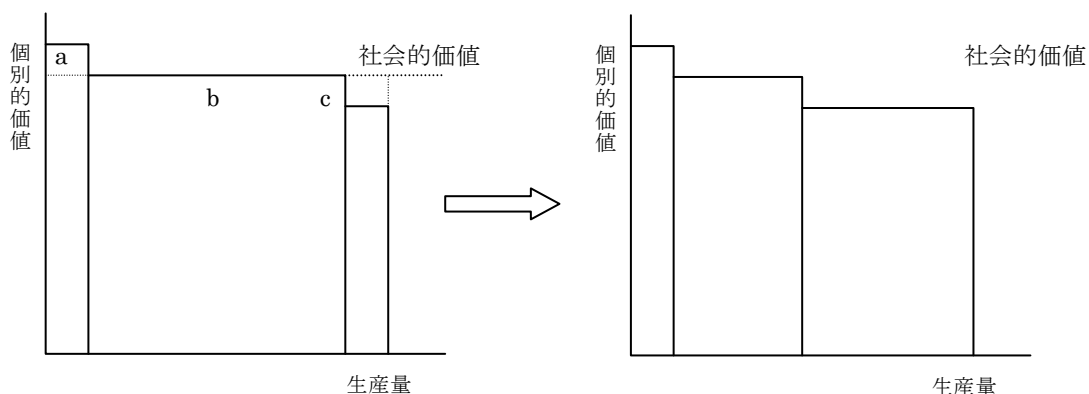
= 新生産方法導入競争の第 1 局面

特別剰余価値の発生



他の個別資本も特別剰余価値を求めて次々に同様の新生産方法を競争的に導入

新生産方法の普及



→ 社会的価値(個別的価値の加重平均)の低下

→ 旧生産方法の個別的価値 > 社会的価値

⇒ 差額は \_\_\_\_\_ の特別剰余価値 = 損失

損失・倒産回避のための新生産方法の導入＝競争の強制作用による導入と資本蓄積

＝新生産方法導入競争の第2局面

⇒特別 M の減少・\_\_\_\_の特別 M の増大

全般的な市場停滞のもとでも(あるいは市場が停滞的だからこそ)

新生産方法の導入と結びついた資本蓄積が促進・\_\_\_\_\_される

⇒停滞からの景気回復メカニズムの柱

② 最低必要資本量の増大

最大限の価値増殖を求める資本の本性と\_\_\_\_\_の作用

→特別 M の発生→消滅のメカニズムの反復

⇒景気循環を通じた生産力の飛躍的發展

⇒生産の\_\_\_\_\_ (循環を貫く傾向)

大規模な機械設備・大量の原材料と労働力

＝その産業部門において平均的・標準的生産条件で生産を行なうための\_\_\_\_\_の増大

③ 資本の集積・集中

(a) 資本の集積：\_\_\_\_\_による資本規模の拡大

←競争で優位となった資本の資本蓄積増大

(b) 資本の集中：複数の資本の\_\_\_\_\_資本への転化

最低必要資本量を準備できない弱小資本

大資本による吸収・合併(M&A)

中小資本同士の合併

⇒その産業部門内の資本数の\_\_\_\_\_

(c) 信用による資本の集積・集中の促進

大資本の信用獲得における\_\_\_\_\_性

i) 直接金融

株式や社債などによる資金調達の有利

株式会社制度：社会的貨幣の広範な動員

\_\_\_\_\_責任制

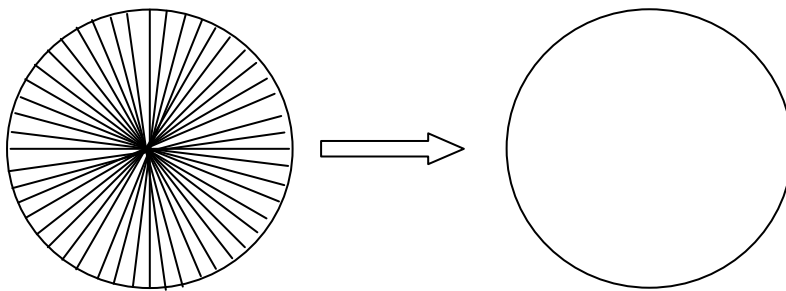
持ち分の少額分割と譲渡＝換金の容易さ

ii) 間接金融

銀行などの金融機関からの資金調達の有利(金額・利率)

(d) 市場構造の変化

資本の集積・集中



競争的市場 → 独占的市場構造の形成

(2) 独占段階の理論の性格 (Text 第6章 p.160)

① 競争段階：多数の競争者の存在による法則の貫徹

(a) 個別の差の相殺・平均化

(b) 目的適合的な行動の優勢＝適者生存→一定の方向性

(c) 意思統一の困難

⇒ \_\_\_\_\_ をもった法則性

② 独占段階：競争者の数の減少による法則性の \_\_\_\_\_

(a) 個別の差・判断の差が一定程度現れる

(b) 淘汰の力の \_\_\_\_\_ (小さくとも独占資本)

(c) 協調的行動の可能性

⇒競争の激化と潜在化の両面＝独占的 \_\_\_\_\_ と競争の絡み合い

⇒蓋然性の理論